



JAAGAだより

日米エアフォース友好協会
Japan-America Air Force Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会
〒160-0002
東京都新宿区四谷坂町9番7号
ZEEKS 四谷坂町ビル 3F
編集：JAAGA事務局
印刷：アロー印刷株式会社
ホームページ：http://www.jaaga.jp/

平成30年度 JAAGA 総会開催 JAAGA Annual Convention held on 10 May 2018

平成30年度JAAGA総会が5月10日(木)、グランドヒル市ヶ谷において開催された。引き続き講演会、懇親会には賛助会員・招待者が加わり、空自隊員・米軍人の殆どが半袖の

制服で参加する軽快な雰囲気の中で、整齐と一連の行事が実施された。
(木村理事記)

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

JAAGA 総会は 15 時から開催され、審議に先立ち、平成 29 年 12 月 24 日にご逝去された故伊中四郎氏の御冥福を祈り、全員で黙祷を捧げた。引き続き、岩崎茂会長から「JAAGA は設立以来様々な成果をあげてきた。特に日本での勤務経験を有する米空軍の方々には、JAAGA による支援にもものすごく感謝している。益々の盛会を祈念してこの 1 年間やっていきたい。正会員数をもっと増やすべく、皆さんの協力をお願いしたい」との挨拶があった。

正会員総数 261 名の内、出席者 60 名、委任状提出者 171 名の計 231 名をもって会則の規定により総会が成立し、議案審議、報告事項の順に審議等が進められた。



President Iwasaki presides over the meeting

年度予算(案)、第 5 号議案(役員を選任(案))の 5 つの議案について、担当理事による説明の後質疑応答が行われた。第 1 号、2 号、4 号の各議案については質問等は無く、第 3 号議案については、大学生や一般市民等の米軍に対する理解促進、入会案内要領、会員名簿の記載要領、賛助会員の入会手続き、准曹士を含む正会員の獲得等について、活発な質疑応答が行われた。第 5 号議案の新副会長の選任を経て全ての議案の審議が終了し、何れの議案も提案通り承認された。

引き続き、報告事項として、役員会で選任された新理事が報告され、総会の議事を終了した。

最後に、役員の新任者(副会長、理事)、全役員の所掌分担、役員の前任者、顧問の委嘱者・退任者が紹介され、出席者全員から温かい拍手が送られ、ほぼ定刻(16 時 15 分)に総会を終了した。
(木村理事記)

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※



Deliberation of Agenda among Regular Members

議案審議は、岩崎会長が議長を務め、第 1 号議案(29 年度事業報告)、第 2 号議案(29 年度決算報告)、第 3 号議案(30 年度事業計画(案))、第 4 号議案(30

～ JAAGA だより 54 号 目次 ～

※JAAGA 総会開催……………1	※日米施設部隊被害復旧訓練……………9	※米空軍からの感謝状贈呈……………26
※JAAGA 講演会……………2	※日米相互特技訓練激励・支援……………10	※米空軍交換将校だより……………28
※JAAGA 懇親会……………5	※日米相互特技訓練の進展……………10	※平成 30 年度事業計画……………30
※日米豪共同訓練参加隊員激励……………6	※日米優秀隊員表彰……………13	※平成 30 年度役員・新入会員……………31
※RFA 参加隊員激励……………7	※共同訓練に空自 F-35A 参加……………16	※会員募集・編集後記……………32
※KSO 感謝レセプション参加……………7	※空幕部長等講演会……………18	
※空自初の F-35A 三沢基地到着……………8	※嘉手納基地研修……………22	

平成30年度 JAAGA総会 講演会 JAAGA Lecture held on 10 May 2018

講演は、在日米軍第5空軍副司令官 Brig. Gen. Jeffrey C. Bozard により、16 時半から 17 時 45 分の間、「米国空軍州兵、国土防衛、航空自衛隊～第 5 空軍副司令官の視点～」と題して行われた。

冒頭、司会の平本理事から、講師は士官学校を卒業後パイロットとなり、13 年間連邦政府軍人として勤務し、その間に 3 年

間の日本勤務を経験したこと、2003 年以降、州空軍部隊勤務に引き続き幕僚勤務をした後に第 113 航空団司令官、本年 4 月に第 5 空軍副司令官に着任したこと、講師は T-37、T-38、F-15C、F-16、C-38 に搭乗し、総飛行時間 3,900 時間強、戦闘飛行時間 150 時間強であること等の概略の経歴が紹介された。
(池田理事記)

まずは、この講話の機会を頂いたことを光栄に思います。私は結婚して 22 年、二人のティーンエイジャーの娘がいますが、長女は嘉手納基地勤務時に生まれました。また、北海道で実施されたコープノースでは、初めて航空自衛隊と出会い、共同訓練にワクワクしました。家族とともに東京、京都、北海道や与論島を旅行し、日本の色々な名所を観光しました。当時住んでいた借家の日本人大家さんが食べ物として持ってきた「生ダコ」に驚かされたこともありました。その後も大家さんとは友情を温めました。

現状の日本側との繋がりを客観的に見てみますと、豊富な通信手段により緊密化しており、同盟関係も強固で、お互いの軍事的能力も高度、戦略レベルも最高度に達していると思います。総隊司令部が隣にあることで 5 空軍と緊密に連携を取ることができ、情報の共有も円滑にできています。戦力も同レベルになってきているし、戦略的な北朝鮮の核ミサイルへの対処も日米で連携してやっています。こんなに緊密なのは、北朝鮮、ロシア、特に中国のお陰です。

州軍も昔は、装備は古く年齢層の高い兵員ばかりだったのが、冷戦後の連邦政府軍の財政改革により、今の主任務は F-16 を使った戦闘への準備であり、C-40 を使った世界各国への VIP 輸送支援であり、今までどおり災害派遣や人道支援任務も誇り高く実施しています。州軍で身につけた技術は、民間でも有用であり、4 年に一度の大統領就任式における警備及びその他の州軍の後方



Brig Gen Jeff Bozard
Vice Commander, 5th AF
Commander, 113th Wing

面での支援を行った際、連邦政府軍と遜色なく任務を実施していました。私の経歴で連邦政府軍と州軍両方で実戦に行っていますが、全く差がないと思います。

州軍は全部で 54 の組織からなり、州軍の予算は連邦政府から出て、各州に分配された後は各州の裁量で予算編成します。そして、州軍の任務はいつでもその予算を使って戦闘に参加できるよう準備しておくことです。連邦政府軍と大きく違うところはその運用方法で、新兵はまず州軍に配属され基本的教育が終わった後、パートタイムでの勤務も可能な旨を伝えられます。過去にいた州軍では 60%の者がパートタイム勤務にしており、40%の者にしかフルの給料が払われていません。スキルの維持をするために月に一回、集合訓練をしています。このような運用は財政の節約モデルですが、システムとして機能させるには各組織が戦術レベルで技量が一致していなければならないと思います。

あるクルーチーフについては、週末は州兵として F-16 や C-40 のクルーチーフをして、他の日はユナイテッド航



Concentrating audience with great interest in the lecture on Air National Guard, which is unfamiliar for Japanese as a topic



Wide range of activities of the 113th Wing which Brig. Gen. Bozard commands in the Air National Guard

空のクルーチーフとして働きます。私の広報官 2 名のうち 1 名は、平日はフォックスニュースに勤めていて、もう 1 名は米務省に勤めています。憲兵隊の者は、本職は警察官をしています。しかし、幕僚や BMD 関係者については、このシステムは適用していません。

航空自衛隊が日本のアラート勤務をする様に、私どももアメリカ本土のアラート勤務をしており、私の配下の F-16 と連邦政府軍の F-16 が同時に待機しています。太平洋空軍のオショーネシー大將は、ノースコム司令官となれば、私の上司になります。2 年前に航空自衛隊はスクランブル回数が千回を超え、過去最高を記録しました。今回は、904 回で下回りましたが、凄い数字です。私の部隊は 2001 年 9 月 11 日からアラートに就いていて、これまでに 6,080 日間で、合計 6,080 回のスクランブルがあったので、1 日に一回スクランブル発進している計算になります。また、任務はアラートだけではないので、54 の組織が交代で戦闘に参加しています。

とても残念な事に過去連邦政府軍と州軍の関係が良くありませんでした。その改革として、まず空軍省と州軍が話し合い、どこの組織が任務のどの部分をやるのかの棲み分けを必要に駆られてやっており、それでも完璧ではないので、同じ基準の検閲や戦闘能力点検を行って技量を同レベルにしていますので、兵士の誰を取っても連

邦政府軍か州軍かわからないくらい技量が均衡しています。そして、私自身も州軍の司令官から第 5 空軍の副司令官に任命されて光栄に感じています。こういった改革はもっと早くからやっておくべきであり、システムを構築する事で効率的に予算が使えると思います。

H-6 爆撃機が宮古島上空を越えたり、TU-95 が飛来してきたり、北朝鮮の弾道ミサイル関連など大きく日本の近代の歴史が変わってきました。米国防長官が国防戦略で示した通り、アジアでの競争が激しく、それに対応していかなければならないのが現実でしょう。私から個人的に皆様に約束したい事があります。連邦政府軍だけではなく州空軍もちろん、日本を同盟国として、間違いなく必要な時に助けるということを約束します。ありがとうございました。

【 質疑応答 】

Q1: 州軍のコソボでの活躍にどのような準備をしたか？

A1: 連邦政府軍と同じカリキュラムで訓練し、タクティクスなども学ばせているので、世界中どこでも連邦政府軍とシームレスに運用できます。

Q2: 予備役の昇任はどのような様になっているか？

A2: 昇任制度は連邦政府軍と全く変わりません。

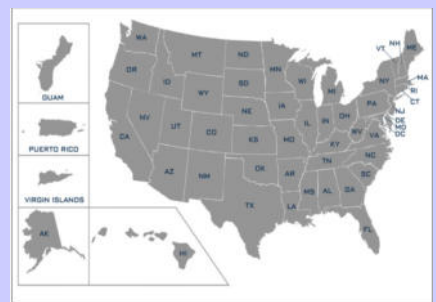
Q3: 米空軍はパイロット不足と聞くが、連邦政府軍と州軍

で違いがあるか？州軍はそれにどう対応しているか？

A3: 私の州軍のことは述べられませんが、パイロット定員は満たしています。ただし、皆パートタイムで普段は民航パイロットをしています。

Q4: コソボなどの戦闘に派遣される時の州兵の身分は如何に？

A4: 国外での戦闘行為は、連邦政府軍としてでしかでき



The Air National Guard consists of 54 Units



JAAGA members and participants from Koku-Jieitai and USAF listen to the lecture attentively with respect



Scene of thoughtful and enthusiastic Q&A session

ませんので、連邦政府軍の身分になります。

Q5: 連邦政府軍と州軍の人事交流如何に？

A5: 自由に交流できるわけではなく、司令官の裁量により志願兵の中から私の様に副司令官に選ばれたりするのです。

Q6: 連邦政府軍と州軍の違いは如何に？

A6: 連邦政府軍にとって州軍は車の緩衝材のような存在で、連邦政府軍の戦闘の必要性が高まった時に穴埋めをし、所要が無くなったら元に戻ります。州軍の運用形態は、パートタイム制を取り入れているところが大きく違うところです。また、戦闘以外の状況では連邦政府軍は州兵の管理義務を持っていません。各州に託されています。財政を考えたなら適度にパートタイムを混ぜるのが良いと

れており、これまでに補償要求されたことはありません。軍も会社運営に影響が出る6ヶ月は越えないようになっています。また、国防省レベルの施策で、雇用企業主を空軍基地に集めて、州軍兵としての勤務環境を確認してもらっています。ネガティブな雇用企業主を空中給油機に搭乗させ、実際に F-16 に空中給油させたら、ポジティブに変わりました。大きく貢献した雇用企業主には表彰をしています。

Q9: 連邦政府軍には年金が支払われるが、州兵が連邦政府軍に所属してももらえるのか？

A9: 連邦政府軍はトータル 20 年務めると年金が支払われます。パートタイムの隊員は同じく 20 年で退役できますが、年金が支払われるのは 62 歳以降です。ただ、パートタイムの隊員は勤務している企業から保険金や退職金が支払われます。私の州軍の副司令官はパートタイムで企業からは州兵とは比べられないほど高給をもらっているのです。

【 記念品贈呈 】

(岩崎 JAAGA 会長) 今日は、州空軍について分かりやすい説明をしていただきありがとうございました。日本に州空軍が無く、付き合いも連邦政府軍人ばかりなので、州軍についてはよく知りませんでした。今日は参考になることが沢山ありました。ボザードさんは第一印象から好意が持てました、それは握手するのにちょうどいい背の高さだったからです。今日の講話の内容も非常に良かったです。お互いのコンプライアンスの問題もあり、高価な贈り物はできませんが、心を込めて美味しい羊羹を送ります。
(池田理事記)



F-16 of the District of Columbia Air National Guard (DC ANG) provides escort for " Air Force

思います。

Q7: 検閲などで州軍が連邦政府軍より優秀な成績を取る事が多々あると聞いたが、州軍司令官として士気高揚に心掛けていること如何に？

A7: 州空軍は、全米に 90 個の航空団を持っていますが、どこが優秀かということより、州軍全体として技量レベルを上げることを考えています。士気高揚に特別やっていることはありませんが、兵士の名前を覚え、出身地を聞いて自分との接点を見つける事をしています。悪い状況の時は客観的に物事を見ることが重要だと思います。

Q8: パートタイムの隊員が長期の戦闘で会社勤務に穴を開けた時、補償はするの？

A8: アメリカ国民は、軍に対してポジティブに捉えてくれるので、雇用企業主も軍に参加するのを光栄に感じてく



President Iwasaki, with thankful mind, shakes hands firmly with Brig.Gen. Bozard

平成30年度 JAAGA総会 懇親会 JAAGA Annual Reception held on 10 May 2018

総会及び講演会に引き続き、懇親会が18時から19時30分まで開催された。会員、招待・案内者、防衛省及び米空軍の現役等、200名を超える関係者が集まり盛大に実施された。

懇親会は、岩崎会長挨拶に引き続き、来賓代表として空幕副長荒木文博空将(Lt. Gen. Fumihiko Araki, Vice Chief of Staff, ASO)から「空自の様々な活動をご支援いただき大変感謝している。F-35Aの装備化により日米空軍間の共同はますます強固になるであろう。これからの新しい時代を迎えるにあたり、空自と米空軍間の交流の活性化が益々必要になる。

今後ともJAAGAの支援、米空軍の協力が必要になると思われるので、引き続きご支援をお願いする」旨の挨拶があった。その後、来賓として中谷元元防衛大臣、佐藤正久外務副大臣及び宇都隆史参議院外交防衛委員長からご祝辞を賜り、メインテーブルの来賓紹介、祝電紹介に引き続き懇親(歓談)が開始された。

JAAGA会員や現役航空自衛官及び米空軍招待者との間で、友好親善の更なる発展の一助となる懇親が図られた。

(早坂理事記)



Japan-U.S. alliance is strengthened by JAAGA activities and each participant's enthusiasm, warm heart and smile

グアムにおける日米豪共同訓練参加隊員を激励 JAAGA cheers Koku-Jieitai participants to Cope North 18

1月29日(月)に小野田理事長、中島理事、渡部理事が、13時から航空支援集団司令官山田真史空将を、15時15分から航空総隊司令部幕僚長浅井玲空将補を訪問し、グアムにおける日米豪共同訓練(CNG)及び日米豪人道支援・災害救援共同訓練(HA/DR (Humanitarian Assistance/ Disaster Relief)訓練)に参加する航空総隊及び航空支援集団の参加部隊を激励し、訓練の成功を祈念した。当日は日米共同統合指揮所演習の最中ではあったが、時間を割いて対応して頂いた。山田司令官及び浅井幕僚長からは「JAAGAからの激励に参加隊員を代表し心から感謝申し上げます」との感謝の意が表せられた。また、山田司令官からは「今回の訓練の展開支援のためC-2が航空輸送を行うので、その能力に期待したい」とのコメントがあった。浅井幕僚長からは「CNGは具体的な訓練内容がより実戦的な方向に進化している等、今回は充実した訓練となっている」とのコメントがあった。

本訓練は、日米豪共同訓練による日米共同対処能力及び部隊の戦術技量の向上並びに人道支援・災害救援活動に係る米豪空軍との相互運用性の向上を目的とし、2月4日(日)～3月11日(日)の期間(展開、撤収を含む)、アメリカ合衆国グアム島アンダーセン空軍基地、北マリアナ諸島サイパン島、テナアン島、ロタ島及びファラロン・デ・メディニラ空対地射場並びに同周辺空域において実施された。

なお、CNGは2月14日(火)～3月2日(金)に、HA/DR訓練は2月11日(日)～3月1日(木)にそれぞれ実施された。両訓練を通じ、航空総隊からは第8航空団(築城)、第9航空団(那覇)、航空救難団(入間)及び警戒航空隊(三沢)の人員360名、F-15J/DJ×8機、F-2A×6機、

U-125A×2機及びE-2C×2機が参加、航空支援集団からは第1輸送航空隊(小牧)の100名、C-130H×2機及びKC-767×1機が参加。CNGでは防空戦闘、えん護戦闘、戦闘機戦闘、空対地射爆撃、電子戦、空中給油、戦術空輸及び搜索の訓練が、HA/DR訓練では航空輸送、不整地離着陸、搜索、航空患者搬送及び飛行場応急措置訓練が実施された。(渡部理事記)



JAAGA Chairman Onoda, Director Nakashima, and Watanabe call on Lt. Gen. Yamada, Commander of Air Support Command & Maj. Gen. Hiratsuka, VC / ASC in Fuchu AB on 29 Jan. 2018



JAAGA Chairman and directors call on Maj. Gen. Asai, Chief of Staff, Air Defense Command in Yokota AB on 29 Jan. 2018



Several scenes in Guam during



Photos by Public Affairs, ASO



レッド・フラッグ・アラスカ参加隊員を激励 JAAGA cheers Koku-Jieitai participants to Red Flag Alaska 18-2

5月31日(木)石野理事長、小野、渡部理事が航空総隊司令官前原弘昭空将(横田基地)及び航空支援集団司令官山田真史空将(府中基地)をそれぞれ訪問し、2018年度 レッドフラッグ・アラスカ演習に参加する航空総隊及び航空支援集団の隊員激励及びJAAGAからの激励品目録の手交を行った。両司令官からは、JAAGAの支援に対する感謝と訓練成功への意気込みの言葉があった。

5月28日(月)に先発隊が出発し、部隊撤収日の6月30日(土)まで行われる。演習期間は6月8日(金)～23日(土)の16日間予定されている。参加規模については、人員約290名(航空総隊約180名、航空支援集団約110名)、航空機F-15J/DJ×6、E-767×1、C-130H×2、

KC-767×1である。

今回の訓練内容及び訓練実施場所はほぼ例年通りで、防空戦闘訓練、空中給油訓練、戦術空輸訓練が米国アラスカ州アイルソン空軍基地及びエメンドルフ・リチャードソン統合基地並びに同周辺空域等で実施される。戦闘機部隊の主体は第6航空団である。また、本演習にはシンガポール空軍が参加する予定である。

なお、今回の訪問の機会を活用して、石野理事長及び小野理事から両司令官に対して本年度のJAAGA事業計画を説明し、JAAGAの活動に対する理解と協力を仰いだ。

(渡部理事記)

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※



JAAGA Chairman Ishino, Director Ono and Watanabe call on Lt. Gen. Maehara, Commander of Air Defense Command on 31 May 2018



JAAGA Chairman and Directors call on Lt. Gen. Yamada, Commander of Air Support Command on 31 May

嘉手納スペシャルオリンピックス感謝レセプション参加 Reception was held to appreciate 18-year cooperation in supporting Kadena Special Olympics

3月21日(水)、ヒルトン沖縄北谷リゾートで開催された「嘉手納スペシャル・オリンピックス感謝レセプション」にJAAGA 沖縄支部丸野礼治支部長が参加した。このレセプションにおいて、嘉手納スペシャル・オリンピックス(以下「KSO」という。)を主催するフレンズ・オブ・カデナ・オリンピックスから、JAAGAがこれまで行ってきた支援に対して感謝の盾が贈られた。

大会主催関係者によると、KSOは2000年(平成12年)から昨年2017年(平成29年)まで18年間開催されてきたが、アスリートが一同に集まるの大会は年々その規模が大きくなり嘉手納基地内での開催が困難になってきたことから昨年の大会をもって終了することとなった。また、今後はスペシャル・オリンピックス日本・沖縄(2008年7月15日に設立)が行う活動の支援を主体に行っていくとのことであった。

同レセプションにはこれまでKSOボランティアとして支援してきた在沖縄陸海空自衛隊員も数多く参加していた。

なお、昨年11月4日(土)に行われたKSOは約1,000人のアスリートが参加し多くの陸海空自衛官もボランティアとして参加した。参加した全隊員には同日付で18航空団司令官カニングハム准将(Brig. Gen. Case A. Cunningham)から感謝状が贈られている。

(参考:那覇基地HP、早坂理事記)



(←) Plaque of appreciation award is given to JAAGA by Friends of Kadena Olympics
(→) Letter of appreciation from Brig. Gen. Cunningham, 18th Wing Commander, to every volunteer participated in the KSO

空自初のF-35A戦闘機が三沢基地到着 First F-35A Fighter arrived at Misawa AB on 26 Jan. 2018



Photos by Misawa AB HP

Misawa AB welcomes the first brand-new F-35A Fighter on 26 Jan. 2018

1月26日、F-35Aステルス戦闘機1機が空自として初の配備先となる三沢基地に到着した。

空自は、老朽化が進むF-4戦闘機の後継機として、F-35Aを42機取得する計画であるが、平成30年度中には10機で飛行隊を新編し、領空侵犯への対応や北朝鮮の警戒監視活動に当たる見通しである。その後も31~32年度にかけ、各年度6機を三沢基地に配備する予定。

県営名古屋空港を離陸したF-35Aは、午前11時ごろに三沢基地に着陸。第3航空団兼三沢基地司令の鮫島建一空将補ら隊員約400人が出迎え、放水のアーチで機体の到着を歓迎した。

鮫島司令は「F-35Aは厳しさを増す環境において我が国の安全確保に大きく貢献する装備品。飛行安全を確保

しつつ、速やかな運用体制確立に取り組む」と述べた。

F-35Aは、米英など9カ国が共同開発した第5世代戦闘機。レーダーに映りにくいステルス性に加え、自機に搭載しているレーダーや赤外線センサーさらにデータリンクを介した情報により状況認識に極めて優れているとされている。機体諸元は、全長15.6メートル幅10.7メートルで重さ13トン。最大速度はマッハ1.6である。

取得する42機のうち、米国製の4機を除いた38機については、日本のメーカーが最終組み立てや一部の部品製造を担う。

2月24日には、三沢基地においてF-35A配備の記念式典が行われた。本式典には、小野寺防衛大臣をはじめ、ジョセフ・M・ヤング米国首席公使、三沢市、東北町、



The first F-35A was warmly welcomed and safeguarded by hundreds of Misawa AB personnel



Koku-Jieitai held F-35A Deployment Ceremony at Misawa AB on 24 Feb. 2018



F-35A Squadron leader shakes hands with Defense Minister Onodera

三沢基地から、約 200 人の隊員が参加した。

小野寺防衛大臣は「中国は軍用機による周辺空域における活動を急速に拡大させ、ロシアも近年軍事活動を活発化している。安全保障環境が戦後、最も厳しい中、F-35 配備の意義は極めて大きいものがある」とし、更に「防空戦闘のみならず、情報収集・警戒監視、対地・対艦攻撃といった様々な任務を遂行することが可能であり、統合運用能力の強化につながる」と述べると共に、同機が射程 500 キロの長距離巡航ミサイル「JSM」を搭載する計画に触れ、「F-35 のステルス性と長射程の JSM を組み合わせれば、敵の脅威圏外から対処でき、自衛隊員の安全をこれまでより確実に確保した任務遂行が可能となる」と述べ、防空態勢の強化に万全を期すよう訓示した。

(「つばさ会だより」第 145 号から抜粋、早坂理事記)

六ヶ所村、十和田市などの地元関係者、自衛隊協力団体関係者、日米企業関係者ら約 150 人の来賓の方が出席し、

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

日米施設部隊による飛行場被害復旧訓練の実施 Koku-Jieitai and USAF Civil Engineers conduct training together for airfield damage repair at Kadena AFB training site

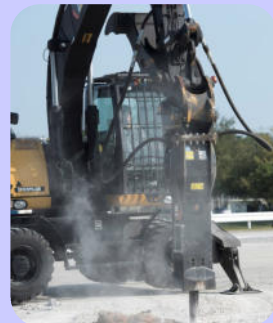
航空自衛隊南西航空施設隊及び第 9 航空団は、2 月 26 日(月)から 28 日(水)の間、米軍嘉手納弾薬庫地区の被害復旧訓練場において、米空軍第 18 施設中隊等と日米共同による飛行場被害復旧等訓練を実施した。

航空自衛隊は、施設部隊の能力の向上及び米空軍施設部隊との相互運用性の向上を目的として、毎年、三沢基地、百里基地、入間基地、横田基地、那覇基地及び嘉手納基地等において年 4 回、訓練 1 回につき 1 日～ 5 日、年 20 日以内の期間で実施することとなった。訓練項

目は①滑走路等の被害復旧訓練、②飛行場等施設の被害復旧訓練、③消防訓練、④それらの総合訓練等である。

本訓練は、基地の被害復旧及び防護に関して高い知見を有する米軍との間で、日米の施設部隊による訓練を実施し、能力の向上と相互運用性の向上を図ることを目的としている。参加隊員は米空軍との意見交換及び共同訓練を通じて、相互理解を深め、今後の日米協力深化の礎を築くことが期待される。

(空幕、那覇基地、嘉手納基地 HP 参照、早坂理事記)



Civil Engineers of Koku-Jieitai and USAF work side by side for damage repair training of runway and other airfield facilities

Photos by Public Affairs, ASO & HQ, SWADF HP



日米相互特技訓練を激励・支援 JAAGA cheers Japan-U.S. Bilateral Exchange Program

5月31日(木)米空軍横田基地において、第5空軍副司令官ジェフリー C. ボザード准将 (Brig. Gen. Jeffrey C. Bozard) を石野理事長、小野及び福永理事が表敬訪問し、日米相互特技訓練 (Japan-U.S. Bilateral Exchange Program) への米空軍下士官の参加及び空自隊員の受け入れの諸活動を激励するとともに、JAAGA の取り組みへの米空軍の理解と協力を謝意を伝えた。

表敬訪問には、在日米軍司令部/第5空軍司令部最優先上級曹長テレンス A. グリーン最優先上級曹長 (Chief Master SGT. Terrence A. Greene) 及びトレイ・マーティン氏 (Mr. Tre Martin) が同席、石野理事長から激励金を贈呈し、和やかに意見交換が行われた。

本プログラムの参加部隊の調整や参加隊員の選定などに、多大な貢献を頂いているグリーン最優先上級曹長から、このプログラムが始まって20年余にわたり日米相互理解と友好を深めてきたとの認識が示され、「この機会にその歴史を記念する冊子を作成して更なる飛躍につなげていきたい」との考えが述べられた。また、ボザード副司令官からは、「本プログラムには多数の米空軍下士官からの参加希望がある。日米隊員相互に多くのことを学び、相互理解を深める上でとても重要な役割を果たしている」と述べられ、JAAGA への謝意が示された。石野理事長からは「JAAGA の活動が微力ながらお役にたてて嬉しい。今

後も日米連協の強化につながる支援を継続していきたい、米空軍の JAAGA への理解と協力に感謝する」と応じた。予定の時間を超えて多彩な話に花が咲き、相互の理解と友情を深めることができた。

なお、JAAGA からの激励金は、5空軍の軍人互助・支援の組織である 5AF Private org. Booster Club へ寄付され、当該ファンドから日米相互特技訓練に参加する軍人たちの活動支援に充てられる。(福永理事記)



JAAGA Chairman Ishino, Director Ono and Fukunaga call on Brig. Gen. Bozard at Yokota AFB on 31 May 2018

日米相互特技訓練の進展 Continuing progress of Japan-U.S. Bilateral Exchange Program

今年に入り、昨年度(29年度)日米相互特技訓練計画のうち、残っていた2件の訓練が実施された。

1月24日～2月2日の間、米空軍第35戦闘航空団(米軍三沢基地)に空自隊員を差し出して訓練が、そして2月6日～14日の間、浜松基地で米空軍下士官を空自基地に受け入れて訓練がそれぞれ実施され、29年度の日米相互特技訓練すべてを終了した。

米軍三沢基地における訓練には、幹部2名(第3航空団、第8航空団)及び空曹5名(第2航空団、第6航空団、第7航空団、中部航空警戒管制団(経ヶ岬)及び航空中央業務隊)が参加し、導入教育、英語による自己紹介、リーダーシップ教育、講話(米空軍第35戦闘航空団司令官及び同第35整備群司令)、基地内見学、米下士官(スポンサー)との意見交換、特技訓練などが

平成30度日米相互特技訓練計画

(空幕教育課提供)

空自受入基地 (trainig base)	期 間 (period)	参加人員 (participants)	空自差出基地 (training base)	期 間 (period)	参加人員 (participants)
浜松基地 (Hamamatsu AB)	2018. July 24 ～July 31	5～7 (Yokota USAF)	三沢基地 (Misawa AFB)	2018. July 11 ～July 20	8 (JASDF)
高良台分屯基地 (Koradai sub AB)	2018. Oct.	5～10 (Kadena USAF)	三沢基地 (Misawa AFB)	2018. Sep. 18 ～Sep. 27	7 (JASDF)
山田分屯基地 (Yamada sub AB)	2018. Oct.	7 (Misawa USAF)	嘉手納基地 (Kadena AFB)	2018. Nov.	15 (JASDF)
防府北基地 (Hofu-kita AB)	2019. Jan. ～Feb.	5 (Yokota USAF)	横田基地 (Yokota AFB)	2018. Sep. 5 ～Sep. 14	15 (JASDF)

実施された。

その訓練後、空自参加者から次のような意見 4 点が聞かれたとのことである。

① 訓練全般を通じ、在日米空軍の組織、勤務要領及び自己特技に関連する職務内容について、今後の部隊勤務の参考となる事項を習得することができた。また、米軍人スポンサーのサポートのもと実地に特技訓練を実施したことで、実務者レベルでの相互理解を深めることができた。

② 英語能力向上については、日々、恒常的に英語を使用する中で英語のリスニングが着実に向上し、訓練後の TOIEC はリスニング及び総合点が向上した。更なる英語能力の向上に努める動機付けができた。

③ 特技能力向上については、細部業務に相違はあるものの、業務に対する重要性は共通であると確認し、自己の職務に対する誇りを獲得するとともに、特技の範囲及び内容並びに職務の体制、運用等の相互理解を深めることができた。

④ 米空軍戦闘航空団における部隊運用、F-16 戦闘機の運用要領並びに警戒管制員として必要な米空軍の戦技及び現代戦の考え方について理解を深めることができた。

次に、浜松基地における訓練の様子を第 1 航空団兼浜松基地准曹士先任の牛島康友准空尉から寄稿していただいたので、以下に紹介する。
(福永理事記)

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

米空軍下士官の空自基地受け入れ

浜松基地
(Hamamatsu AB)
第1航空団兼浜松基地准曹士先任
准空尉 牛島康友
Training Impressions

2月6(火)～2月14日(水)の間、第1航空団において日米相互特技訓練(Bilateral Exchange Program 以下「BEP」)を実施しました。

1空団司令谷嶋正仁空将補の「下士官の訓練であるので、先任の思うようにやってよし！任せたまえ！」の言葉から、本訓練の全般計画、アシスタント(対番係)に関すること及び総務的業務は私が担当し、空幕及び所在部隊間の調整、文書発簡は1空団人事部訓練班が担当しました(実際は互いに担当の垣根を越えて重複しながら実施)。第1航空団は平成24年6月にも本訓練を受け入れた実績があり、その資料をもとに昨年8月頃から計画を作成しましたが、今年1月に空幕担当者へ計画案を提出したところ、交流プログラム(レクリエーション及び観光等)が多すぎるので、特技訓練日を増やして欲しいと返答があり、そこから改めて計画の練り直しや調整が始まりました。

訓練初日は、米軍バスの到着を各隊隊員が自隊旗を持参して出迎え、団司令表敬、記念撮影の後に対番係の自己紹介及び米軍への導入教育(基地内生活説明)を行いました。そして締めくくりとして基地クラブにおいてアイスブレーカー(初対面の人と打ち解けるための懇親会)を実施し、その中で米軍隊員による自己紹介を行い、和やかな打ち解けた雰囲気が醸成されました。

2日目は、第1航空団、第1術科学校及び第2術科学校の概要説明を行った後、F-2及びT-4の機体見学、T-4シミュレーター、浜松気象隊、浜松管制隊、教材整備隊の研修を行い、各隊の准曹士隊員が英語で説明を実施しました。

3日目は、0530から消防小隊による航空機火災消火訓練(Pit Fire)を見学し、燃えさかる炎の熱が伝わって来ると米軍隊員からは驚きの声が出ていました。そして、昼間は各群計画による特技訓練を実施しました。夕方は、基地所在の中部航空音楽隊の定期演奏会を鑑賞し、フィナーレでの中音隊長のパフォーマンスに米軍隊員は



Precision measuring equipment maintenance

(←)
CMSgt. Greene,
CCMSgt. of USFJ/
5AF, makes
an on-site
observation of the
training
at Hamamatsu AB



Powered ground equipment maintenance

「Excellent !!」と立ち上がって歓声を上げ大満足の様子でした。

4日目に、米軍隊員の中から1名のインフルエンザ患者が発生しました。しかし医療行為に壁があり、結果的に横田基地より陸路で迎えに来てもらうことになり、残念に思うとともに、受け入れ側として準備すべき事項について多くの事を学びました。

この BEP 期間中の特技訓練は、3日間実施し、各群の



(↑) Looking into and studying about T-4 jet training aircraft



(←) Hydraulic maintenance

計画により実際に空自の仕事を経験してもらいました。

休日は、浜松基地連合准曹会による基地外柵沿いのボランティア清掃、基地剣道部による剣道体験、方広寺における座禅体験、うなぎパイファクトリー、スズキ歴史館、浜松広報館及び浜松城の見学、と料金がかからない所

を中心に案内しました。中でも座禅では住職が座禅そして説法も英語で行ってくれました。それを熱心に聞いていた米軍隊員の姿が印象的でした。

特技訓練最

終日は、在日米軍司令部及び第5空軍司令部最先任のグリーン上級曹長、第374空輸航空団最先任のヤング上級曹長、統幕最先任の荻野准空尉、海上自衛隊先任伍長の関海曹長等で編成された視察団に訓練風景を視察して頂き、本訓練は日米双方にとって充実した良い訓練であるとの感想を頂きました。

フェアウェルパーティーでは、1空団司令、副司令、視察団の方々にも参加して頂きました。冒頭に1空団司令から米軍隊員へ訓練終了証を授与し、余興では基地太鼓部による演奏と体験、2曹・3曹会による日米アームスリング大会、基地連合准曹会会長による本格的な手品

等で盛り上がりました。パーティーの締めくりに訓練参加隊員が互いに、笑顔でギフト交換している姿を目にして、とても感動するとともに今までの苦労が一瞬で吹き飛びました。訓練を実施して本当に良かったと思いました。

本訓練を通じ経験したこと、学んだことは一生の宝となり、これからの人生において、そしてこれからの日米同盟において必ず役に立つはずで。訓練参加者は、この訓練で得た貴重な経験を部隊へ持ち帰って多くの同僚に話してもらい、経験の共有を行ってもらいたいと思います。

最後に、この日米相互特技訓練を支援していただいているJAAGAの皆様には心から感謝申し上げます。(了)



A big wake-up call, Pit Fire!
Fire fighting training



Maintenance training of
communication equipment



Aircraft engine



Food service



Pit fire exercise



Zen Meditation



Drum "Taiko" practice

Several scenes of cultural events in and out of Hamamatsu AB, where most selected facilities are admission free!



Hamamatsu AB NCO Association members and USAF participants voluntarily clean up together along outside of the base outer fence



Farewell Party contains variety of attraction and exchange of gifts, and results in satisfactory faces that "Japan-America Air Force Goodwill" are shining through

平成29年度日米優秀隊員表彰 JAAGA AWARD for Koku-Jieitai & USAF Brilliant Soldier in FY 2017

平成29年度JAAGA日米隊員表彰式が、2月～3月、那覇、横田及び三沢の航空自衛隊基地において行われた。本表彰行事は平成10年度から開始されて以来20回目とな

り、表彰者数は総計141名(空自81名、米空軍60名)を数えた。 ※日米優秀隊員の一覧表をp17に掲載。
(岩成理事記)

— 沖縄地区表彰式 — Okinawa area

2月2日(金)、平成29年度沖縄地区JAAGA表彰行事が航空自衛隊那覇基地で実施された。

表彰式は基地講堂において、祝賀会は基地隊員食堂において開催され、航空自衛隊からは南西航空方面隊副司令官渡邊博史空将補及び第9航空団司令兼那覇基地司令稲月秀正空将補以下53名、米空軍からは第18航空団副司令官タナー大佐以下25名、そして那覇基地協力者として沖縄県防衛協力会会長代理大宜味様他4名の皆様のご来臨を頂いて、丸野礼治JAAGA沖縄支部長以下5名のJAAGAメンバーを含めた総勢88名の参加者を得て開催された。

表彰式は、南西航空音楽隊による日米国歌の演奏から始まり、続く丸野支部長の挨拶では、平素の我が国の安全保障への貢献に対する日米両部隊へのお礼、本表彰事業の意義、被表彰者への祝意と感謝、そして本表彰行事に係る多くの関係者、特に那覇基地の積極的なご協力、ご支援に対するお礼が述べられた。

今年度の航空自衛隊側被表彰者は第9航空団飛行群高松太一 3等空曹で、航空機整備員として、嘉手納

米空軍基地との共同作業等を通じて、日米相互の特技能力向上に尽力するなどの功績が認められた。

また米空軍側被表彰者は第18航空団のジェイソン・スギモト2等軍曹で、卓越した英語、日本語能力をもって、日米の重要な会議での通訳調整や日米の救難部隊などとの連絡調整役としての功績が認められた。

丸野支部長は日米の被表彰者に表彰状と記念楯を授与し、被表彰者の功績を称えた。

その後、航空自衛隊代表の稲月基地司令と米空軍代表のタナー副司令官からご祝辞があり、日米両国の協調がこの地域の安定と繁栄に寄与していること、そして航空自衛隊と米空軍との間の絆強化の重要性、被表彰者の活動が仲間意識と団結を強化していることなど、被表彰者へのお祝いと敬意の言葉が述べられた。

祝賀会においては、まず沖縄県隊友会会長の藤田様からのご祝辞と乾杯があり、日米出席者が和気藹々と受賞者を称える温かな雰囲気の中、祝賀会となった。最後に、沖縄県防衛協会青年部会会長大宜味様のご祝辞、乾杯でお開きとなった。

本行事の実施にご尽力いただいた那覇基地、嘉手納基地の皆様にご心から感謝申し上げます。(岩成理事記)

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※



At JAAGA Award Ceremony in Naha AB on 2 Feb. 2018, 22 people including Head of Okinawa Branch Maruno, Maj. Gen. Watanabe, Maj. Gen. Inatsuki and Col. Tanner are in line. SSgt. Taichi Takamatsu, Koku-Jieitai and TSgt. Jason Sugimoto, USAF are commended

— 関東地区表彰式 —
Kanto area

2月9日(金)、平成29年度関東地区JAAGA表彰行事が航空自衛隊横田基地において実施された。

表彰式は基地講堂、記念植樹は将官宿舎東屋周辺、祝賀会食は将官宿舎レセプションルームにおいてそれぞれ開催され、航空自衛隊からは航空総隊幕僚長浅井玲空将補、同防衛部長今城弘治空将補、作戦システム運用隊司令兼横田基地司令齋藤拓也1等空佐、気象群基地業務隊長桜田2等空佐、第3補給処整備部長城2等空佐をはじめ54名、米空軍からは第374基地業務群副司令デファージオ空軍中佐、第374支援中隊長ホプキンス空軍少佐他3名の計5名、そして横田基地周辺協力者として、横田基地協力会会長山下様及び横田基地OB会会長糸永様他のご来臨を頂いて、森下副会長以下3名のJAAGAメンバーを含めた総勢60名を超える参加者を得て実施された。

表彰式においては、冒頭、森下副会長から、航空自衛隊及び米軍の活動に対する謝意と平素のJAAGAの活動へのご支援に対する感謝、そして本表彰行事に係る関係者、特に横田基地による積極的なご協力、ご支援に対する謝辞を述べた。

今年度の航空自衛隊側被表彰者は、航空総隊司令部の横山弘喜空曹長(空自横田基地)、航空気象群の富菜政次2等空曹(府中基地)及び第3補給処高橋令花2等空曹(入間基地)であった。横山曹長は、横田基地太鼓部のメンバーとして日米の様々な文化交流行事

等に積極的に参加し貢献したことなど、富菜2曹は、様々な交流行事等において通訳を積極的に務め、横田最上級下士官グループとの交流を積極的に参加したことなど、高橋2曹は様々な交流行事等において、高い英語能力を発揮し、特に計測器整備員として米空軍軍人との交流会を実施したことなど、それぞれ日米各種交流行事での積極的な貢献や日米関連事業での活躍が認められたものである。

また、米空軍側被表彰者は、第374空輸航空団のジョセフ・ホワイト空軍中尉であった。日々大勢の日本人従業員と交流し横田基地隊員および地域住民との交流を促進するなど地域



Tree-Planting Ceremony
by Lt. Col. Defazio, Vice President
Morishita and Maj. Gen. Asai, praying
trilateral (JAAGA, Koku-Jieitai, USAF)

社会との関係強化に多大な貢献をし、また昨年の横田基地日米友好祭および福生七夕祭など多くの行事を支援し成功させるなどの功績が認められた。

森下副会長は、日米4人の被表彰者にそれぞれ表彰状と記念楯を授与し、その功績を称えた。その後、齋藤横田基地司令、浅井航空総隊幕僚長、桜田気象群基地業務隊長、城第3補給処整備部長及びデファージオ副司令の5人から、被表彰者を称える旨のご祝辞を頂いた。

その後、基地内東屋周辺にて、浅井幕僚長、受賞者の皆様、森下副会長などで記念植樹が行われた。

祝賀会食においては、まず横田基地協力会会長の山



At JAAGA Award Ceremony in Yokota AB on 9 Feb. 2018, 23 people including Vice President Morishita, Maj. Gen. Asai, Maj. Gen. Imaki, Col. Saito and Lt. Col. Defazio are in line. CMSgt. Hiroki Yokoyama, TSgt. Masatsugu Tomina, TSgt. Reika Takahashi, Koku-Jieitai and 1st. Lt. Joseph Wight, USAF are commended



下様からご祝辞を頂くとともに乾杯の音頭をとって頂き、その後、4人の被表彰者からは、それぞれ今回の受賞を光栄に思うこと、支えてくれた上司、同僚、家族への謝意、そして今後も一層日米関係強化のため尽力するとの決意が表明された。

平成29年度関東地区JAAGA表彰行事は有意義かつ楽しい雰囲気の中で幕が閉じられた。

横田基地のスタッフや大勢の基地隊員の皆様、ご支援をいただき、本当に有難うございました。

(岩成理事記)

— 三沢地区表彰式 — Misawa area

3月20日(火)、平成29年度三沢地区JAAGA表彰行事が航空自衛隊三沢基地において実施された。

米空軍将校クラブにおいて表彰式、祝賀会が実施された。航空自衛隊からは北部航空方面隊司令官城殿保空将、同副司令官時藤和夫空将補、三沢基地司令鮫島建一空将補、北部航空警戒管制団司令柿原国治空将補以下50名が、米空軍からは第35戦闘航空団司令官ジョーブ大佐以下12名が出席され、また三沢基地周辺協力者からは三沢市防衛協会会長野坂様他4名の皆様のご来臨を頂いて、渡邊副会長以下4名のJAAGAメンバーを含めた総勢71名の式典となった。

表彰式は北部航空音楽隊による日米国歌の演奏から始まり、続いて渡邊副会長が挨拶し、日本を取り巻く厳しい国際環境と信頼に基づく日米同盟強化の益々の必要性、日米の部隊の平素の活動に対する敬意と謝意、表

彰行事の目的の紹介及びJAAGAの活動への積極的なご協力、ご支援に対する謝辞と今後なお一層のご理解、ご協力をお願いについて述べた。

今年度の三沢基地における航空自衛隊側被表彰者は、北部防空管制群の澤田和希2等空曹で、日米の様々な交流行事等において卓越した英語能力を発揮し特にアメリカンデーやスペシャル・オリンピックスなどでのボランティア通訳を行うとともに、三沢基地2曹・3曹会副会長としての功績が認められたものである。

一方の米空軍側被表彰者は、第35戦闘航空団のポール・ライリー上級曹長で、航空自衛隊要員のF-35導入準備教育に関わるとともに、米空軍人による航空自衛隊訪問等の相互訪問プログラムを主導するなどの功績が認められた。

渡邊副会長は、日米の被表彰者にそれぞれ表彰状と記念楯を授与するとともにその功績を称えた。三沢基地司令鮫島空将補からは、被表彰者へのお祝いの言葉とともに、「三沢基地は日米友好を象徴する基地であり、友好親善に寄与した隊員を表彰してもらうことは、特に意義深いことである」との祝辞が述べられた。また、ジョーブ司令官からは、2人の被表彰者の功績を称えつつ、日米友好に努力している現場の隊員達をはじめJAAGAに対する謝辞が述べられた。

表彰式後の懇親祝賀会においては、三沢つばさ会会長の倉持様に、更なる友好親善を祈念して乾杯の音頭をとって頂いた。その後、日米の被表彰者から挨拶をいただき、有意義かつ温かい雰囲気の中での進行であった。最後にJAAGA三沢支部の丸山泰支部長から乾杯



At JAAGA Award Ceremony in Misawa AB on 20 Mar. 2018, 28 people including Vice President Watanabe, Lt. Gen. Kidono, Maj. Gen. Tokito, Maj. Gen. Kakihara, Maj. Gen. Samejima and Col. Jobe are in line. TSgt. Kazuki Sawada, Koku-Jieitai and SMSgt. Paul Riley, USAF are commended

の発声があり、平成 29 年度三沢地区 JAAGA 表彰行事は幕が閉じられた。

皆様、大変お世話になりました。本当に有難うございました。
(岩成理事記)

三沢基地の日米のスタッフ、大勢の三沢基地隊員の

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

米軍との共同訓練に空自 F-35A が参加 F-35A, Koku-Jieitai joins bilateral training at Misawa AB

三沢基地は、5 月 9 日から 24 日までの間、米軍再編に係る航空機訓練移転に伴い、岩国基地に所在する米海兵隊と共同訓練を実施した。

本訓練参加のため来基したのは、第 12 海兵航空群 第 121 戦闘攻撃中隊 (VMFA-121、通称「グリーンナイツ」) 所属の F-35B 戦闘機及び隊員約 140 名で、航空自衛隊からは、三沢基地所属の F-2 戦闘機及び F-35A 戦闘機、千歳基地所属の F-15 戦闘機、浜松基地

所属の E-767 早期警戒管制機が参加。今回の訓練は、航空自衛隊と米軍の相互運用性向上を目的として、三沢基地を軸に北海道西方空域及び三沢東方空域において行われた。

また、期間中の課外(余暇)における文化交流等を通じ、各職域において相互理解、友好関係を深めた。

(三沢基地 HP 参照、早坂理事記)

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※



Photos by Public Affairs,ASO & Misawa AB HP

(↑) (from right) F-35A, F-2, F-35B, F-15
(↓) Scenes of joint training between Koku-Jieitai and USMC at Misawa AB



— 受賞者及び功績の概要 —
JAAGA AWARD 2017 Recipients and their Achievements

部隊	受賞者	功績の概要
北部航空 警戒管制 団 (三沢) Misawa	 2等空曹 澤田 和希 TSgt. Kazuki Sawada	様々な交流行事等で卓越した英語能力を発揮し、特にアメリカンデーやスペシャルオリンピックス等でボランティア通訳を行うとともに、三沢基地2曹・3曹会副会長として貢献。 Showed outstanding English speaking skills as an interpreter in various Japan-U.S. interchange events such as Special Olympics and American Day and dedicated efforts as a vice chairman of the Misawa Sergeant Association.
	 空曹長 横山 弘喜 CMSgt. Hiroki Yokoyama	横田基地准曹会会長として日米の相互理解の深化に寄与するとともに、横田武蔵太鼓部メンバーとして日米交流行事へ積極的に参加するなど貢献。 Deepened bilateral cultural understanding and comradery as the head of the Yokota AB Senior NCO Association and participated actively, as a member of Yokota AB Drum Club “Yokota Musashi Daiko”, in various Japan-U.S. cultural exchange events.
航空総隊 司令部 (横田) Yokota	 2等空曹 富菜 政次 TSgt. Masatsugu Tomina	様々な交流行事等でボランティアを積極的に務め、横田フロストロードレースマラソンやスペシャルオリンピックスに参加するなど、横田下士官グループとの交流を積極的に図り貢献。 Volunteered for various Japan-U.S. interchange events such as the Yokota Frostbite Race and Special Olympics and actively mixed with USAF Yokota NCO group.
	航空気象 群 (府中) Fuchu	第3補給 処 (入間) Iruma
第9航空 団 (那覇) Naha	 3等空曹 高松 太一 SSgt. Taichi Takamatsu	航空機整備員として様々な交流行事等で遺憾なくその技能を発揮し、特に日米相互特技訓練において第44飛行隊と第304飛行隊整備員の共同作業等を通じて日米相互の特技能力向上に努め、同訓練受け入れにおいても通訳として活躍するなど貢献。 As an Aircraft Maintenance specialist, sufficiently demonstrated outstanding skills in various Japan-U.S. interchange events, particularly during “Japan-U.S. Bilateral Exchange Program”, made efforts to developing capability of participating specialists and served as an interpreter.
	第35 戦闘 航空団 (三沢) Misawa	 SMSgt. Paul Riley 上級曹長 ポール ライリー
第374 空輸 航空団 (横田) Yokota	 1st. Lt. Joseph Wight 中尉 ジョセフ ワイト	軍支援中隊軍人事小隊長として日々大勢の日本人従業員と交流し、横田基地隊員および地域住民との交流を促進するなど、地域社会との関係を強化するとともに、横田基地日米友好祭および福生七夕祭りなど多くの行事を支援し成功させるなど貢献。 As the Chief of Military Personnel Flight, interfaced with hundreds of Japanese employees on a daily basis, promoted the integration of members of Yokota Air Base and local Japanese people, helped propel community collaboration efforts in Japanese-American Friendship Festival and Fussa Tanabata Festival.
	第18 航空団 (嘉手納) Kadena	 TSgt. Jason Sugimoto 2等軍曹 ジェイソン スギモト

JAAGA空幕部長等講演会 Lecture for JAAGA members on 15 Feb. 2018

平成30年2月15日(木)、平昌(ピョンチャン)オリンピックの熱気漂う中グランドヒル市ヶ谷「珊瑚の間」において、「つばさ会/JAAGA訪米団」報告会(1320～1350)及び航空幕僚監部人事教育部長鈴木康彦空将補による「航空自衛隊の人事教育等施策について」の講演会(1400～

1530)が行われ、JAAGA会員74名(正会員45名、個人賛助会員8名、団体賛助会員1団体1名、法人賛助会員14社20名)が聴講した。また、正会員である宇都隆史参議院議員からの祝電が披露された。

(木村理事記)

【 つばさ会/JAAGA訪米団報告会 】

平田理事から、平成29年度の訪米概要として、岩崎会長を団長とする訪米団9名の紹介、及び、研修日程として、9月10日に羽田を出発し、ハワイ州パールハーバー統合基地(Joint Base Pearl Harbor)に2泊(太平洋軍司令部、太平洋空軍司令部、ホノルル総領事公邸等を訪問)、アリゾナ州ルーク空軍基地(Luke AFB)に2泊(操縦者教育を担う第944戦闘航空団を訪問)、コロラド州ピーターソン空軍基地(Peterson AFB)に2泊(空軍士官学校、宇宙軍司令部、北方軍司令部、北米航空宇宙防空司令部、シュリーバー空軍基地(Schriever AFB)第50宇宙航空団等を訪問)、ワシントンD.C.に5泊(JAAGA名誉会員と交流、米空軍協会(AFA)コンファレンスに参加)し、22日に成田に帰国した旨が説明された。

研修成果は3点に集約し、①様々な教訓が得られたこと、②米(空)軍の現状を確認するとともに日本及び航空自衛隊に対する信頼と期待の大きさを痛感できたこと、③日米間の相互理解の促進に寄与できたことが述べられた。引き続き、成果の細部及び各訪問先での活動が、JAAGAだより第53号(平成29年12月25日)掲載の『つばさ会/JAAGA訪米団』AFA総会参加等報告』の内容を簡潔にした形で説明された。加えて、献花先であるハワイのマキキ

海軍墓地について「明治以降ハワイに寄港し任務半ばにして病に倒れハワイの地で命を落とした旧帝国海軍の英霊が埋葬されている墓地である」等、より詳細なエピソード等を織り交ぜた説明がなされた。

質問は特になく、多くの関係者の献身的な事前調整、現地での積極的な支援により円滑・充実した研修となったことに対し感謝の意を表して報告を終えた。(木村理事記)



JAAGA Director Hirata reports on “The summary of visit to AFA General Meeting in US by Tsubasa-Kai and JAAGA”

【 航空幕僚監部人事教育部長講演会 】

冒頭、鈴木人事教育部長から「日米相互特技訓練」等に対する常続的なJAAGAの支援・協力に対して、謝意が述べられた。

また、入隊以降の主要補職を提示しつつ軽妙な自己紹介が行われるとともに、東日本大震災や中国、北朝鮮に関するエピソードが紹介される中、前職の総隊防衛部長時代、横田基地内に空自将官宿舎と米軍指揮官等宿舎が隣接していることから、カウンターパートである5空軍副司令官と緊密に連携できた等、同じ基地内に日米両司令部が所在するメリットを痛感したことが披露された。

引き続き、空幕人事教育部の5つの課(人事計画課、補任課、厚生課、援護業務課、教育課)の担当分野を提示しつつ、人事教育に係る業務は、隊員一人一人の入



Guest speaker Maj. Gen. Yasuhiko Suzuki, Director, Personnel and Education Department, ASO, gives a lecture

隊前から退職後までに関わる非常に幅広いものであり、個々の隊員の精強性、技能、士気、モチベーションを高め精強な自衛隊であるためのあらゆる施策に取り組むにあたり、部下に対しては「人」を扱う仕事であることを肝に銘じるよう指導していることが強調された。



JAAGA members listen to the lecture enthusiastically and respectfully

その後、いよいよ本題に入り、近年の環境の変化などに対応するため人事教育部が取り組んでいる諸課題の中から6項目(①募集状況、②男女共同参画、③操縦者の状況、④レジリエンス・トレーニング、⑤援護業務関連施策、⑥空自「空上げ」)を取り上げ、概要以下の通り、紹介された。

1 募集状況について

(1) 自衛官の募集

いくら募集を頑張ってもそもそもの募集対象者人口(18歳～26歳)の減少が続くのが、将来直面する問題。また、有効求人倍率の上昇に反比例して志願者は減少する。一般幹部候補生、航空学生、一般曹候補生の倍率は低下しており、29年度、一般曹候補生について通常の秋試験に加え既高卒者を対象とした春試験を導入し、海自は航空学生の対象年齢を22歳まで引き上げる等の工夫をしている。自衛官候補生(男子)の採用状況は、少子化、好景気、任期制への魅力低下、若者の気質、親御さんの心情の変化等により、採用計画を割り込む厳しい状況。空自は以前は比較的人気があったが、最近陸自に押されている。このような中、募集広報の更なる充実、優秀な広報官の地方協力本部への派遣、隊員自主募集(旧:縁故募集)の強化等を重視している。

(2) 予備自衛官の募集

予備自衛官には、予備自衛官、即応予備自衛官、予備自衛官補の3種類があり、空自で現在採用しているのは予備自衛官のみ。招集区分は、防衛招集、国民保護等招集、災害招集、訓練招集があり、東日本大震災時は空自の予備自衛官として23名が初めて実動招集され、松島、山田で被災者に対する生活支援を実施し、様々な

課題も確認できた。予備自衛官の業務は、佐官、尉官及び准曹士の別に、現職時の経験及び知識に見合った職務を指定する等、わが国を取り巻く環境の変化に柔軟に対応しつつ、最大限活用できるよう適時見直しを行っている。空自の予備自衛官の充足率は平成15年度以降減少し70%程度であるが、平成27年度からの充足率向上施策(退職後2年目の再勧誘、退職前隊員への制度周知の強化、招集訓練の魅力化、雇用主の理解促進)の成果が徐々に上がっている。また、雇用主に対するインセンティブとして、建設工事の総合評価落札方式における評価(予備自衛官の現場配置状況に応じて加点)、雇用主に対する情報提供制度、予備自衛官等雇用企業協力確保金、等の取り組みを実施または予定している。

2 航空自衛隊における男女共同参画推進等に係る施策について

政府方針を踏まえて平成27年に策定された「防衛省における女性職員活躍とワークライフバランス推進取組計画」を受け、全隊員が最大限能力を発揮できる組織環境を整え空自の精強性を維持向上させることを目的として、4つの柱(①女性隊員の活躍推進のための取組、②男女隊員が育児・介護等と両立して活躍できるための取組、③働き方改革、④意識改革)を掲げた。

(1) 女性隊員の活躍推進のための取組

女性自衛官の総人員占有率は平成41年度末目標の約10%に対し現在7.3%程度であり、課長補在(3佐クラス)以上の政府目標約10%に対しては3.5%程度である。防大40期(女子1期)は6名全員が在職(3名は1佐)している。新隊員の教育隊については、防府南基地は収容限界があるので、熊谷基地等でも受け入れ施設拡充を模索中である。



メンター制度(職場内の先輩(メンター)が後輩(メンティー)に対して行う個別支援活動として、全国73の基地等に跨り身近にロールモデルがない隊員の状況も考慮し、キャリア形成や育児・介護等と仕事の両立を相談対象とした制度)を平成28年度から試行している。男女全ての希望隊員をメンティー対象者とし、現在約250名の隊員

がメンターに志願・登録し活躍している。

(2) 育児・介護等と両立して活躍できるための取組

男性隊員の育児参加等の促進(育児休業の取得促進、チャイルドケア・セブン(配偶者出産特別休暇2日、育児参加特別休暇5日)の100%取得、子の看護のための特別休暇の利用促進等)について実施中。任期付自衛官制度(育児休業または配偶者同行休業により不在となる隊員の代替要員として、その休業期間を任期の上限として元自衛官を採用することが出来る制度)の実績は向上している。基地内託児施設の整備を推進中であり、29年度には市ヶ谷基地にも開園。空自としては28年度に人間基地内に「Jキッズスカイ入間」を開園し、ハロウィーン時には子どもたちが各部隊を回りお菓子をもらう微笑ましい光景も見られた。また、緊急登庁支援策(災害派遣等での緊急登庁の際、子供を帯同して登庁せざるを得ない隊員の支援)も試行・運用中である。

(3) 働き方改革

テレワーク(在宅勤務)を、導入可否を含めた検討のため一部職員をもって試行中である。

(4) 意識改革

「ゆう活」(=夏の生活スタイル変革)の促進、男女共同参画推進集合訓練(制度説明、指揮官の意識向上のための意識啓発講演)の実施、男女共同参画推進等ハンドブックの全隊員への配布、及び、女性自衛官活躍紹介パンフレット(「空女」(そらじよ): http://www.mod.go.jp/asdf/about/ge_wlb/index.html で閲覧可能。)の配布等を行い、意識改革に取り組み徐々に成果が上がっている。

3 操縦者の状況について

女性戦闘機操縦者の養成状況としては、平成5年に操縦職域を含む全ての職域を女性自衛官に開放、平成7年から女性操縦者の養成を開始(戦闘機、偵察機を除く)し、約20年間の実績等を踏まえ、性差に拠らず個人の能力、適性及び意欲を有する隊員を全ての配置に登用することが適切との結論に至り、平成27年度に女性自衛官の戦闘機等への配置制限を解除した。現在1人目が戦闘機操縦課程を履修中であり、順調に養成が進んでいる。



4 レジリエンス・トレーニングについて

レジリエンスとは、逆境や困難に耐え、回復し、成長する能力(強くしなやかな折れない心)のことを言い、長

期化するグレイゾーン事態への対応、多様化・複雑化する任務への対応が求められる中、人的戦力の健全性を維持・向上させ航空自衛隊の精強化に資することをねらいとして、28年度から正式にレジリエンス・トレーニングを導入した。米空軍のレジリエンス・トレーニング手法を参考にしつつ、

心理的、身体的、社会的、精神的レジリエンスの4分野にまたがるトレーニング手法を取り入れた。編合部隊・編制部隊



レベルの指導者として、心理幹部、心理療法士、心理学の素養を有する者を集合教育や部外委託教育により「マスター・レジリエンス・トレーナー」として養成(29年度入間基地で38名を養成)、その要員をもって、編単隊レベルの指導者となる「レジリエンス・トレーナー」を育成し、30年度末までに、全隊員が最低1回はレジリエンス・トレーニングを実施することとしている。

5 援護業務関連施策の紹介

若年定年退職者(1佐)の現状は、一般企業、防衛関連企業半々程度であるが、輸入装備品の増加に伴い防衛関連企業の採用枠拡大が困難となっていることや年金支給開始年齢までの雇用延長に伴い、今後10年程度はローテーション枠数が一時的に圧迫されるので、今後は新規採用企業の確保が従来に比して必要となる。1等空佐の職責を踏まえ、退職自衛官の意思と能力に応じた新たな分野における再就職先の確保も喫緊の課題である。

このため、今年度当初から、「新規開拓プロジェクト」と銘打ち、①退職予定者の意向等を踏まえた新規雇用企業の拡充(主に採用実績のない企業に対する重点訪問、「企業説明会」の開催)、②民間危機管理(BCP/BCM)部門における再就職枠の確保(当該部門への再就職希望者への動機付け等のため「民間危機管理講習会」を開催)、③自治体防災監等への採用枠の拡大(現在空自OB29名が防災監等として採用。退職者数が限定的であることから、大規模震災の蓋然性が高い地域を優先して進めていく。)、④人材紹介資料(PR資料)の充実(一般向け、BCP/BCM向け)(景気が良いため、任期制隊員の再就職は良好であるが、1佐レベルは苦勞している)に取り組んでいる。

6 空自「空上げ(からあげ)」の普及に向けた取組み

隊員の食に対する意識と関心を高め、不喫食の低減、生活習慣病の予防・改善を図ることを目的として、27年

度から「航空自衛隊食育の日」を設け、食育献立、食育教育等の取組みを実施している。28年3月、食育の日の空自統一料理を鶏の「空上げ(からあげ)」と決定し、自衛隊記念日に全基地で提供した鶏の「空上げ」は隊員達に大好評だった。空自「空上げ」には、「空自」全体でより「上」を目指す意味が込められている。

空自空上げの普及・定着を目指し、①空上げを題材とした空自調理競技会の開催、②各基地の空上げレシピの共有、③空自空上げの「のぼり」作成等を計画している。部外



“KA-RA-A-GE”, Koku-Jieitai’s special food means an unique fried chicken at each AB

向けとして、①空自・各基地 HP でのレシピ紹介、②空自調理競技会のメディア報道、③地元商工会・企業などと協力した特産品化による地域振興への寄与等を行っていく予定。広く普及し、若年層が将来空自に入隊するようなきっかけ、地域振興への寄与、空自の良好なイメージの構築・PRの一助になるような取組みにしたい。基地を訪れた際に、この基地のオリジナルの空上げはどんなものかと話題にして頂ければありがたい。

【 質疑応答 】

Q1: 女性隊員を活用するにあたり、女性隊員の募集状況は如何か。

A1: 任期制隊員の募集は、男子は厳しいが、女子の募集倍率は高く多くの志望を頂いている。しかし、一度に受け入れ可能なキャパシティの関係で急激に採用者数を増やせない状況であり、模索している。

Q2: 後方職と運用職の交流配置を試行するという話しを耳にしたことがあるが、進んでいるか。

A2: 運用と後方の相互配置ではなく、それぞれの中で、より幅広い補職をしようというものである。期待されるのは3佐以上1佐までであるが、例えば高射幹部を敢えて要撃管制幹部の配置につける等の試行を現在行っている。補職前教育を行い、将来、1佐クラスになったときに、運用、後方それぞれにおいて自己の職域以外のことも分かるよう幅を広げられるような制度設計、教育課程の新設・改革も視野に入れて、試行を開始したばかり。

Q3: 女性操縦者の現状は説明を受けたが、全体的な操縦者の養成状況は如何。

A3: 東日本大震災で F-2 はダメージを受けたが、今年度末には 13 機とあってある程度の態勢に戻り、戦闘機操縦

者の課程については大分回復してくると見ている。今後 10 年間は操縦者の大量定年を迎える。今後どのような航空機が装備されるかにも拠るが、退職者数とほぼ同じレベルで新人養成を行い、定数を維持していく見込み。様々な問題はありますが、今後も創意工夫しながら頑張っていきたい。

Q4: 最先端技術を取り入れた戦闘機 F-35 に係る次期中期防における教育体系について、どう考えているか。

A4: F-35 操縦者は、最初の部隊建設要員は米国委託教育で、今年の夏からは国内教育で養成する。当面の間は、部隊経験者の機種転換になるが、近い将来、F-15/F-2 の戦闘機操縦課程を修了した新人が最初から F-35 の部隊に行く時代が来る。課程のシラバス等は運用試験を通じ検討し、何年かかけて試行していくことになる。現時点において次期中期防の内容はまだ模索中。F-15/F-2 の部隊のみでは今後新人教育の所要が賄いきれなくなるので、F-35 の部隊にも新人が入ってくる時代が遠からず来る。

Q5: サイバー分野の人材育成・確保は、部内で行うのか、アウトソーシングして素養の高い人材を外から導入することを考えているのか。

A5: 部隊の規模や、どこが受け持つのか、組織が通常の自衛隊の組織編成のような縦社会の指揮系統かフラットな部隊か等、模索中。フラットな部隊になるとしたら、その中での人材の養成管理、将来的なポストがなかなか作れなくなる。個人的には、自衛官を充てるのが正しいとは必ずしも思わない。知見を持った企業へのアウトソーシングや「共働」もあるだろう。人材が行き来する制度作りも必要。部内で素養のある隊員を育て生涯自衛隊にいるというのは、おそらく成り立たないモデルだと思う。

約 15 分間に及ぶ活発な質疑応答の後、岩崎会長から、人を育てる重要な役割を強調しつつ、講師に対する激励と感謝の挨拶があり、握手が交わされた。

最後に講師から JAAGA に対し、引き続き空自・日米空軍種間交流への支援・協力をお願いする旨の挨拶があり、満場の拍手をもって講演会は閉会した。

今回の講演は空自・米軍関係に直接焦点を当てた内容ではなかったが、それ故に空自の人事教育に係る様々な取組みや課題をその部門の責任者である人教部長から問題意識も含めて直接伺えた貴重な機会となった。

(木村理事記)



JAAGA President Iwasaki shakes hands with Maj. Gen. Suzuki for thanks

平成29年度JAAGA嘉手納基地等研修 JAAGA Members' Visit to Kadena AFB on 13 ~14 Mar. 2018

3月13日及び14日の2日間、JAAGA会員による米空軍嘉手納基地及び航空自衛隊那覇基地の研修を実施し、任務及び主要装備品等についての理解を深めるとともに、日米指揮官等との懇談等を通じて日米安全保障体制の重要性を再認識し、友好親善を図った。

研修団には、団長として小野田治氏(正会員)、副団長として山崎剛美氏(正会員)及び坂本義光氏(個人賛助会員)を迎え、以下、研修員として正会員9名、賛助会員20名

(法人10名、団体2名、個人8名)及び随行理事として5名(平本、吉田、伊藤、吉川及び福永)が参加した。また、JAAGA沖縄支部丸野礼治支部長が現地で研修に合流した。

本研修の計画にあたり日米の関係部隊から誠意あふれる受入及びその他の支援をいただき、多くの成果を得て日米相互の理解と信頼の絆をより強くすることができた。

※参加会員研修所感をp27に掲載 (福永理事記)

研修第1日目

【入間基地集合・結団式】

研修団は、入間基地に集合し、結団式を行った。団長及び副団長からそれぞれ研修に行くにあたっての抱負、方針、心構え等を含め挨拶をいただき、引き続いて参加者全員の自己紹介が行われた。これから2日間の研修に向けて、和やかな中にも気持ちを引き締めることができた。

【C-1輸送機に搭乗、築城基地経由、那覇基地へ】

高気圧に覆われ晴れわたる空のもと、航空自衛隊のC-1輸送機に搭乗し入間基地から築城基地を経由して那覇基地へ向かった。出発地の入間基地では、中部航空方面隊司令官金古真一空将、中部航空警戒管制団副司令井上剛1等空佐及び第2輸送航空隊司令高橋和久1等空佐の出迎え・見送りを受け、出発までの間、団長及び副団長と懇談の場が設けられた。同様に中継地の築城基地においては、築城基地司令佐藤信知空将補、飛行群司令大西健介1等空佐、整備補給群司令五十川淳1等空佐、監理部長山崎一郎2等空佐と懇談の場が設けられ、それぞれ団長からはJAAGAの研修への支援に感謝が伝えられるとともに、部隊の状況や研修地沖縄の話題に話が弾んだ。

那覇基地への飛行は気流も安定していて順調であった。飛行中、操縦席の見学など、C-1輸送機搭乗を十二分に体験させていただいた。

【那覇基地歓迎昼食会・南西航空方面隊司令官講話】

那覇基地にはほぼ予定通り着陸すると南西航空方面隊司令官上ノ谷寛空将はじめ、航空自衛隊那覇基地主要幹部の皆様の歓迎を受け、基地食堂で沖縄料理「アサーそば」と「ジューシー(炊き込みご飯)」をいただき、沖縄の空気をたっぷり感じながら会食を楽しんだ。

昼食のあとは場所を司令部庁舎に移し、第9航空団司令兼那覇基地司令稲月秀正空将補も同席されて、上ノ谷司令官の講話が実施された。「めんそーれ南西空へ」と題して、南西防衛区域の特性、沖縄県の情勢、周辺諸国の活動活発化の状況及び司令官自らが2回目の勤



Courtesy call on Lt. Gen. Kaneko, Commander of Central Air Defense Force at Iruma AB



Maj. Gen. Sato, Commander of 8th AW welcomes JAAGA members at Tsuiki AB



(←) JAAGA members line up for boarding

(→) In the cabin of C-1 to Naha





Lt. Gen. Kaminotani, Commander of Southwestern Air Defense Force treats JAAGA members to a local food “ ASA-SOBA noodles & JUSI rice ” for



務で感じられたことなど、幅広い視点から貴重なお話をいただき、最前線の緊張感の中で頑張る隊員たちの活躍を知ることができた。

司令官講話の後、司令部庁舎中央ロビー内で上ノ谷

司令官、稲月基地司令とともに記念撮影が行われた。

【米空軍第 18 航空団概況説明】

航空自衛隊のバスに乗車して那覇基地を後にし、国道 58 号線を一路、嘉手納基地に向かった。嘉手納基地のゲートを無事通過し、第 18 航空団司令部庁舎に到着すると第 18 航空団司令官ケース・カニングハム准将 (Brig. Gen. Case A. Cunningham, 18WG/CC) 直々にお出迎えいただいた。司令部内の会議室に案内され、カニングハム司令官からの歓迎挨拶に続いて、第 18 航空団副司令官リチャード・タナー大佐 (Col. Richard C. Tanner, 18WG/VC) から概況説明をいただいた。インド太平洋地域には米国の同盟国の 61 %が存在し、中でも日本は最も大切な同盟国であること、在日米軍の 70 %が沖縄に存在し沖縄における基地の占有率は大きく、また、嘉手納基地には約 18,000 人の米軍人・軍属と約 4,000

人の日本人従業員等が「チーム・カデナ」として勤務し、日本の多大な支援に感謝していることなどの説



Commander of Kadena AFB welcomes Mr. Onoda, tour leader (and Chairman of JAAGA)



A group photo of JAAGA Study Tour Members with Lt. Gen. Kaminotani and Maj. Gen. Inatsuki, Commander of 9th WG at Naha AB



Tour leader Onoda gives the commemorative gift to Brig. Gen. Case A. Cunningham, Commander of Kadena AFB



(↑) Col Richard C. Tanner, 18th WG / VC presents a summary of Kadena AFB to JAAGA members
(↓) JAAGA tour members received the message “JAPAN is most important”



明を受けた。嘉手納基地が地域の「よき隣人」であることの重要性を認識し、地元との関係を重視していることがよくわかった。Q&Aセッションでは小野田団長をはじめ、会員から活発な質疑があり、とても有意義な機会となった。

概況説明の後、展示航空機エリアの F-15 戦闘機の前で集合写真を撮影し、嘉手納基地を一望できるクラブハウスで夕食会までの間、お茶や買い物など少しゆっくり過ごした。

【JAAGA 主催懇親会】

第 1 日目の夕刻、嘉手納基地クラブにおいてカニングハム第 18 航空団司令官以下主要幹部等、及び稲月那覇基地司令以下主要幹部等を招待し、JAAGA 主催レセプションを開催した。

カクテル・タイムで軽いウォーム・アップ、気持ちも体もリラックスした頃、第 18 航空団司令官付将校ブラントン・クルーパ大尉 (Capt. Brandon Krupa, 18th Wing

Executive Officer) ※と JAAGA 吉田理事の息の合った日米両司会によりレセプションが進められた。(※クルーパ大尉は、平成 28 年度日米優秀隊員表彰 JAAGA AWARD 2016 を受賞しており日本語も堪能。)

はじめに、カニングハム准将はじめ嘉手納基地からの招待者 8 名と稲月空将補はじめ那覇基地からの招待者 6 名が紹介された。盛大な拍手で招待者を歓迎し、続いて JAAGA の概要と活動について簡単な紹介の後に、JAAGA 研修団の小野田団長、山崎副団長、坂本副団長及び丸野支部長の紹介が行われた。

小野田団長が主催者として厳しい北朝鮮情勢などを背景とした即応態勢維持の中で本研修を受け入れていただいたことや日頃の JAAGA 活動への理解と協力に感謝の言葉を伝え、次に、カニングハム司令官から歓迎の意と日米の絆の重要性、JAAGA の活動への感謝の言葉をいただいた。

食事の用意が整い和やかな雰囲気のもとビュッフェ・スタイルのディナーが始まり、各テーブルとも終始、和やかに、賑やかに会話と食事が進んでいった。お腹も会話も一息ついた頃、スペシャルゲストとして「ファイヤーバード・ドラマーズ」が登場し、エイサー太鼓演奏の素晴らしいパフォーマンスを披露してくれた。このグループは、基地内の小・中学



(↑) Members of the main table at the reception
(↓) Master of ceremony are JAAGA director Yoshida and Capt Krupa, 18th WG Executive Officer



生で構成され、沖縄の芸能文化の一つであるエイサーを通して地元の文化に親しんでいる。沖縄国際カーニバル、嘉手納スペシャルオリンピックス、沖縄マラソンなどのイベントでも演舞を披露し、基地内外で広く人気を博しているとのことであった。

エイサー太鼓演奏の素晴らしいパフォーマンスにレセプションも最高潮に達したところで、小野田団長から締め挨拶を行い、日米空軍種間の緊密な協力関係が更に深化していくことを確信して、成功裏にレセプションを終了した。



Wonderful performance "EISAA" is shown by "Firebird Drummers" as a special guest at the reception

研修第2日目
【嘉手納基地研修】

米空軍第18航空団の計画により飛行場及び航空機見学(F-35A, F-15C, HH-60G, KC-135)が実施された。大型バスによる飛行場ツアーで広大な敷地を巡り、2本の滑走路を使用してたくさんの種類の作戦機が頻りに離着陸を行う様子を見学し、最前線基地の張りつめた緊張感を感じた。

KC-135 空中給油機の見学においては、広い駐機エリアに所狭しと並ぶ機体に圧倒された。また、KC-135は、エンジンを換装し能力向上され1955年製の機体がまだ現役であり、平均使用年数は55年という説明に感心させられた。今回の研修の目玉の一つは最新鋭の戦闘機F-35A、昨年11月から6か月の予定でユタ州ヒル空軍



(↑)JAAGA members listen to the briefing of F-35A positively
 (↓)With F-35A at the back



JAAGA members are surprised at very large KC-135



基地第 34 戦闘飛行隊から 12 機、約 300 名が展開してきているもので、アジア太平洋地域で初めて作戦展開しているとのことであった。間近に見る F-35A は、新しい世代に相応しい風貌で、空の戦いを変えるといわれる頼もしさを感じられた。その他、F-15C 戦闘機及び HH-60G 救難ヘリコプターを見学し、それぞれの部隊のクルーからとても丁寧な説明を受けた。研修の間、終始同行していただいたカニングハム司令官及び 18 航空団のスタッフの皆様に見送られて短時間ながら充実した研修を終え嘉手納基地を後にした。

【第9航空団 F-15J 見学】

那覇基地へ戻り隊員食堂で昼食(体験喫食)をいただき、研修の締めくくりは第 9 航空団の F-15J 見学。第 9 航空団飛行群司令高石景太郎1等空佐から F-15J の機体説明、コックピットへの搭乗及び HMD(Helmet Mounted Display)・耐 G スーツ・救命装具をフルに身につけたパイロットの説明があり、航空自衛隊の第一線の人と装備に触れ、肌で現場の緊張感を感じながら研修を終えた。

【解団式】

すべての研修メニューを終了し、C-1 輸送機にて空路入間基地に戻り、空輸ターミナルにおいて解団式を行った。小野田団長及び山崎副団長から、「ホスト部隊も含め、本ツアーが日米の関係構築に寄与できた。米空軍の現場を垣間見ることができ個人的にもとても勉強になった。空自、米軍及び地域が一体となって取り組んでいる実態とその絆の強さを感じることができた。参加者それぞれが



Col. Keitaro Takaishi, Commander of Flight Group, 9th WG, briefs about F-15J at Naha AB, Koku-

この成果を持ち帰って活かしてほしい」、坂本副団長から「とても素晴らしいツアー、F-35 戦闘機を見ることができて一生の思い出になった」等の所見とともに、研修の準備及び実行にあたり多大なるご支援をいただいた日米受け入れ部隊及び支援部隊関係者並びに参加者のお力添えとご協力に対し謝辞が述べられた。(福永理事記)

**米空軍第 18 航空団副司令官から感謝状贈呈
Maj. Furusawa, HQ of Southwestern ADF, was given Appreciation Plaque
by VC of 18th AW**



(←) Maj. Mikihiro Furusawa was given a Letter of Appreciation by Col. Tanner, 18th AW/VC at Kadena AFB on 16 Mar. 2018
(→) Letter of Appreciation

米空軍嘉手納基地第 18 航空団と南西航空方面隊の幹部の交流及び関係発展に貢献したとして、3 月 16 日(金)、南西航空方面隊司令部総務部人事課訓練班長古澤幹広 3 等空佐(現在、教育集団司令部勤務)に対し、米空軍第 18 航空団副司令官リチャード・ターナー大佐(Col. Richard C. Tanner, VC of 18th AW)から感謝状が贈呈された。

(南西航空方面隊 HP 抜粋、早坂理事記)



"Impression of Study Tour"

Mr. Mikio Matsuda

**嘉手納基地研修所感****松田幹生氏**
(正会員)**1 C-1 輸送機の機内について**

貨物や空挺などの隊員の輸送のための航空機ですから飾りは全くありません。トイレが気になったので乗員に尋ねたところ、C-1にはトイレがありました。トイレがない機種では、簡易トイレという袋が支給されているとのこと。乗員におねだりして、使用したところ極めて快適、後始末も簡単でした。筆者がF-104戦闘機の操縦者であったころ、トイレはもちろん、簡易トイレもありませんでした。百里基地から那覇基地へ悪天候の中を飛行中のときは、大変苦労しました。

2 築城基地にて

燃料補給のため築城基地に立ち寄りしました。私たちのC-1の向うにF-2がずらりと並んでいました。後でも話は出ますが、最近、中国の軍用機の我が国への接近が著しく増加し、築城基地からのスクランブルも大幅に増えていると推察されます。

3 那覇基地にて

F-15の飛行隊が2個飛行隊に増強され、第83航空隊が第9航空団となり、南西航空混成団は南西航空方面隊になっていました。

那覇基地に到着し、昼食後、南西航空方面隊司令官から、方面隊の状況を説明して頂きました。特に印象に残ったことは、中国機に対するスクランブルが著しく多くなり、ロシア機に対するスクランブルを含めて、28年度は全国で1000回を超えたとのこと。また、最近の中国機の航跡は沖縄周辺に止まらず、本島、宮古間を通過して太平洋に出るコース及び対馬海峡を通過して日本海に出るコースが多くなったとのことでした。これらのお話から、中国機の経路に面した基地のスクランブル発進が圧倒的に多くなっていると察します。またロシア機の日本周辺の飛行もソ連時代に迫る数であるとか。これらをスクランブルに従事した経験者として思うのは、現在の戦闘機等の操縦者達は、多くなった待機、スクランブルに従事しつつ、日日の訓練もこなしているわけですから、筆者がF-86やF-104で対領空侵犯措置に従事していたころと比べると、量的にも、緊張の度合いも、現在の操縦者達にはかなりの負担増となっていることは間違いありません。ちなみに、かつて筆者は、第83航空隊司令部防衛班長の職にありました。そのころ、先島諸島を抜けてベトナムとシベリアを往復するソ連のIL-62を殆ど毎早朝、出迎え又は見送りをしていました。第207飛行隊のパイロット達もご苦労でしたが、筆者も毎早朝、お付き合いをしていました。民間空港との共用のお話もありましたが、緊急発進に関しては円滑にできているとのことでした。

4 嘉手納基地にて

嘉手納基地では、第18航空団司令官の歓迎の挨拶に続き、副司令官の状況説明がありました。

嘉手納基地が地理的にアジアにおいて極めて重要な位置にあることを改めて認識しました。第18航空団は、空軍機の戦力発揮のみならず、飛来する海軍や海兵隊機を支援する等任務は多岐

にわたっているようでした。

基地内のツアーでは、空中給油機KC-135、救難ヘリHH-60G、F-15C戦闘機、本国から派遣されたF-35Aを見学しました。そのほかにAWACSがいましたが、遠くから眺めるだけでした。

KC-135は就役から古いもので50年もたっているようですが、十分役にたっているとのことでした。HH-60Gには全機に空中給油ブームが取り付けられ、機外左右には銃座がありました。F-15Cは古い機体ですから、常に改良を加えているようです。この点は航空自衛隊も同様です。F-35Aのパイロットによれば、操縦は容易で、練習機の課程終了後からいきなりF-35Aに搭乗したとのことでした。F-15CのパイロットのF-35Aについての意見では、F-15Cが勝つ(I win)とのこと。古今東西2個飛行隊あれば、どちらも俺(うち)が強いというものです。

日米のF-15の比較についての意見の内、事実と思えたのは、「整備は日本の方が優れている」と述べたことです。それは過去の私の経験とも一致しています。上級飛行幹部課程の教官であったころ、ベトナム戦に参加したことのある米空母に学生とともに、迎いの輸送機で着艦し、見学する機会がありました。離発着訓練を見学後、艦載機を見学中、F-4ファントムはフラップに欠損があったり、機体表面に凹凸があったり、かなり汚れていたり、学生達は異口同音に「汚ねー飛行機だなー」と話していました。

研修を終えたあと、仲良しになったF-4の飛行隊長に浜松基地で航空自衛隊を見学することを提案すると、彼は即座に同意、数日後、飛行隊長以下F-4パイロットの大勢が海軍のバスで浜松基地にやって来ました。概況説明の後基地内を案内しました。第一術科学校で彼らが航空自衛隊のF-4ファントムを見た時、それぞれが機体を撫ぜ回し「ビューティフル」「ビューティフル」と感嘆していました。夜は、Drunk ,drunk and drunk.

5 再び那覇基地にて

飛行群司令や若い飛行隊員から、F-15Jの説明を受けました。後輩であるパイロ

ットの一人に、嘉手納のF-15Cと共同訓練を通じてこちらの腕がよいと思うかと質問したところ、彼は無言で、自分の胸を指さしました。なるほど。

6 C-1で入間へ

2日間の嘉手納、那覇両基地での充実した研修を終え、研修団は再びC-1にまたがり、ノンストップで入間に帰着しました。

入間基地、築城基地、那覇基地及び嘉手納基地では、水も漏らさぬおもてなしを頂きまして、誠に有難う御座いました。研修団長ほか理事の方々にも厚くお礼申し上げます。

7 また機会があれば

那覇の町ぐわの一泊もあればと……



Mr. Matsuda was convinced that Kadena AFB was very important

(松田氏経歴)

航空学生第5期、第102飛行隊、第206飛行隊、実験航空隊飛行隊、中空司令部、第83航空隊防衛班長、第7高射隊長、空幕副監察官、総隊司令部(自衛艦隊司令部航空連絡幹部)、航空学生教育群司令等を歴任、平成3年定年退官
現在は「株式会社「れんがはうす」代表取締役としてご活躍

特集

米空軍交換将校だより

Present circumstances of “Officer Exchange Program between Koku-Jieitai and USAF”

【 航空機整備部門 】
航空教育集団 第1術科学校
(Air Training Command, 1st Technical School)
Capt. James P. Guthrie

皆さん、こんにちは。私は、第1術科学校の米空軍交換将校のガスリー大尉です。私の職種は整備幹部であり、以前はノースカロライナ州、シーモア・ジョンソン基地のAMU (Aircraft Maintenance Unit の略) 小隊長として勤務していました。ここで、米空軍のAMUについて、自衛隊の飛行隊整備小隊と比較しつつ説明したいと思います。

自衛隊の飛行隊整備小隊には、航空機の離着陸支援とタイヤ交換等の軽易な整備を行う航空機整備員と呼ばれる40～50名の隊員がいます。これに対し米空軍のAMUには、航空機整備員以外の様々な専門員が含まれる150～250名の隊員がいて、幅広い範囲の整備を行います。例えば、エンジン交換、空調や与圧に関する整備も、AMUが実施します。AMUの小隊長は航空機の状態に責任を持つため、とても難しい仕事という意味では、自衛隊の飛行隊整備小隊長と似ていますね。



Reading practice with English club
at Hamamatsu AB

AMUの小隊長の時には苦労しました。毎日長時間働いて、色んな人からいつも質問されます。もし、部下や航空機に問題があれば、それは小隊長の責任です。それでも、小隊長としての勤務は素晴らしいです。整備員と一緒に働くことはとても楽しいですし、自分の整備した航空機が任務に就いていることを誇りに思います。私自身、国内外で4年間仕事をしてきて、AMUの小隊長の苦労する面と素晴らしい面との両面がよく分かりました。

実は、この4年間で本当に苦労したので、現在の交換将校に選ばれた時は本当に嬉しかったです。また色々な理由があって日本に来るのを楽しみにしていました。

私が最初に日本に訪れたのは20年前でした。そのときは新潟でALT(文部科学省の外国人英語教師プログラム)の仕事をしていま

した。日本に引っ越した後に妻と出会い、アメリカの大学院に通うため、アメリカに戻る前に結婚しました。ずっと前から、子供たちが日本の母方の親戚に会い、日本の文化を理解するために、日本に帰ることを望んでいました。私が32歳で入隊した時に日本に配属される可能性があったのですが叶わなかったため、今回家族で日本に来られたことが本当に嬉しかったです。

私は第1術科学校の14人目の交換将校になるのですが、私の家族はたくさんの初めての経験をしました。私は日本で、学校に通う年齢の子供を持つ初めての交換将校です。実際、2016年3月にここへ移動してきたときに、子供たちは中学1年生、小学1年生、保育園の年少に通い始めました。この時は大変な出費でした。子供たちにとって日本の学校に通うのは、言語的にも、文化的にも不安があっ



Capt. James P. Guthrie



Capt. Guthrie with a T-4.



Capt. Guthrie is teaching students of the 1st Technical School

年には、航空教育集团、航空自衛隊における英語競技会で審査員を務めることもできました。そして、第1術科学校長の上境将補に、2年連続でコープ・ノースに、通訳者として参加することを認めて頂きました。その際には、航空自衛隊が展開先でいかに活動するのかを知ることができ、私のルーツである米空軍の整備を再認識することができました。あと、2月のグアムは浜松市よりもずっと暖かかったです。

家族にとって、そして私自身にとって、浜松での生活は楽しい時間でした。今では、子供たちは私よりも日本語が上手で、妻も再び日本に住めることを喜んでいました。家族がいたからこそ、近所のお祭りや小学校の運動会などの地域のイベントにも参加できました。残念ながら、7月からはアメリカに赴任しなければなりません。浜松での良い思い出を、胸に抱いていきます。(了)

たので、妻が日本人なのは幸運でした。交換将校は日本にいる間に、どれだけ観光地を巡ったかの話をするとおもいますよね？私は子供のサッカーのため、浜松市周辺のあらゆるサッカーグラウンドに行きましたが、まだ一度も日光には行ったことがありません。

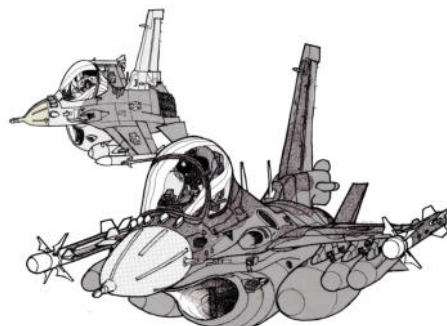
この仕事のおかげで色々ないい経験ができました。将来の整備幹部に教育することはとても楽しかったです。2016



Capt. Guthrie and his co-workers from 1st section of the 1st Technical School.



Family vacation at the USJ



作:富岡幹博会員 F-2A & F-16

平成 30 年度 JAAGA 役員

職 名	氏 名	
会 長	岩崎 茂	
副 会 長	小野田 治 山崎剛美 平田英俊	
理 事	理 事 長	石野次男
	副 理 事 長	福井正明
	企 画	中島邦祐 清藤勝則 平本正法 上田知元 小野賀三
	総 務	福井正明(ケ) 岩成真一 福江広明 尾上定正 大浦弘容 深瀬尚久 長田国男
	渉 外	谷井修平 阪東政詮 吉田浩介 岩本真一 川口泰四郎 藤田信之
	会 員	森田公治 米沢敬一 伊藤 哲
	広 報	早坂 正 渡部憲政 木村和彦 池田五十二 福永充史
	財 務	日吉章夫 吉川礼史 内山隆弘 山本祐一
監 事	池田 勝 阿部英彦	
支 部 役 員	支 部 長	丸山 泰 (三沢) 丸野礼治 (沖縄)
	支部事務局長	山本親男 (三沢) 木村貞夫 (沖縄)
顧問 (HP 担当特任)	四ツ家邦紀 (注; 赤字は新任者)	

JAAGA 役員退任者

職 名	氏 名
副 会 長	森下 一 渡邊至之 長島修照
理 事	狩集貴尚 杉山伸樹 杉山政樹 横谷 薫

新 入 会 員 紹 介

1 正会員 (Regular Member)

氏 名	住 所	氏 名	住 所
佐野佳幸	千葉県柏市	大浦弘容	東京都練馬区
深瀬尚久	東京都西東京市	竹内昭彦	埼玉県所沢市
杉山良行	東京都日野市	長田国男	埼玉県さいたま市
根石正敏	埼玉県所沢市	小野賀三	埼玉県和光市
大山孝夫	沖縄県那覇市	八家百合	東京都世田谷区
山頭 彰	福島県相馬市		

2 個人賛助会員 (Individual Associate Member)

氏 名	住 所	氏 名	住 所
山本一成	石川県小松市	池脇克則	埼玉県所沢市
西脇正人	埼玉県所沢市		

会 員 募 集

○今期は、関係各位のご努力で、新たに正会員 11 名、個人賛助会員 3 名の合計 14 名の入会を得ることができました。

○5.31 現在、正会員数 263 名、個人賛助会員数 81 名、団体賛助会員数 2 団体及び法人賛助会員数 38 社となっております。

○今後とも、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。

なお、本会への入会につきましては、次のとおりです。

推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当理事から連絡させていただきます。

【入会資格】

正 会 員：航空自衛隊のOB

賛 助 会 員：航空自衛隊のOB以外の方。正会員 3 名の推薦が必要です。

【連絡先】

郵 便：〒160-0002

東京都新宿区四谷坂町9-7 ZEEKS 四谷坂町ビル3F

日米エアフォース友好協会 会員係

【 編 集 後 記 】

◇ JAAGA だより 54 号をお届けします。前号まで航空自衛隊の英語訳を“JASDF”と表記してきましたが、今号は“Koku-Jieitai”にしました。既に横田基地においては日米間で一般的になっています。全国的には慣例化されていませんが、少しずつ慣れ親しんでいただきたいと思います。

◇ JAAGA 総会講演会において、第 5 空軍副司令官ボザード准将から「州空軍」について貴重な講演を頂きました。日頃馴染みのない組織について、勉強し、理解し、視野を広げる良い機会となったのではないのでしょうか。

◇ 空自初の F-35A が三沢基地に配備され、早速、米軍との共同訓練に参加しました。空自もいよいよステルス戦闘機を運用し、米空軍等との相互運用性の向上が図られます。JAAGA だよりもその動きをしっかりとモニターしていきたいと思います。

◇ 空幕人事教育部長の講演の内容から、JAAGA 会員個人個人としても、人事教育の分野、とりわけ募集・援護について、協力や応援をしていける部分があるのではないかと考えさせられました。各基地・分屯基地の空自「空(から)上げ(あげ)」も、楽しみですね。

◇ 今号の挿絵にもこれまで同様に、山本康正会員と富岡幹博会員から寄稿いただきました。読者から好評です。どうぞお楽しみください。

◇ 『JAAGA だより』は、JAAGA ホームページ(<http://www.jaaga.jp>)からもご覧頂けます。バックナンバーもすべて掲載しています。

◇ 広報理事を中心とする JAAGA だより編集員一同、今後も JAAGA の活動を中心に地道に発信していきたいと思っておりますので、会員及び現役の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。 (編集子)



作：山本康正会員